

29.7.25

提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

2017年 7 月 25 日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 23-003
 名称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会
 所在地 印西市木刈 3-9-1
 代表者職氏名 矢野眞理
 連絡先 電話:

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>武西の里山 保全と調査事業</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>2016 年度に千葉県から印西市に譲渡された武西地区の里山は、都市に隣接しているにもかかわらず、生物多様性に富んだ貴重な自然環境を残している希少な場所です。ここには今も、絶滅危惧種をはじめとする希少な動植物が多様性をもって生息しています。</p> <p>一方、里山の環境は人の生活に密着して維持されてきたため、燃料や芝草を採取する必要がなくなった今も、適切に人の手を入れなければたちまち荒廃し、生物多様性がもたらしている生態系の均衡はまたたくまに崩れてしまいます。</p> <p>また、里山は人の目がつきにくいということで、ごみの不法投棄、違法に侵入し使用する行為、絶滅危惧種を盗掘する行為などが後をたちません。</p> <p>印西市所有地となり、今後どのような里山にしていくか、市としてのビジョンができていくものと思われませんが、その間も、劣化や荒廃に至らぬような保全事業を必要としています。</p>
<p>提案理由</p>	<p>里山の保全作業を行うにあたっては、いつ、どの場所を、どんな頻度で行うかを判断し計画をたてます。また、その計画が適切であったかどうかを、モニタリングや環境調査によって評価し確認をしていく必要があります。</p> <p>そしてこの二つの事業をもって、環境の劣化を防ぎ、再生をはかることができます。</p> <p>また、保全事業と同時進行で、自然環境を次の世代へ繋げていくための、無理のない社会的な仕組みを作ることも必須です。</p> <p>行政と市民との協働が、丁寧な事業展開と経験を生み出し、よりよい里山の環境づくりを可能にするものと考えます。</p>

<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>1.保全事業 1)草地の草刈り 2)湿地の手入れ 3)ゴミ拾い</p> <p>2. 環境調査事業 * 東邦大学と協力 1)植生 草地・湿地 2)生きもの 両生類・昆虫類・魚類 3)水質調査</p> <p>3. モニタリング事業 1)ニホンアカガエル卵塊調査 2)猛禽類調査 3)メダカ調査 4)ホタル調査</p> <p>必要経費は約 90 万円程度で見込んでいます。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>当会は印西市及び白井市の環境団体の連合体である北総里山クラブの谷田武西プロジェクトチームが前身となります。2010 年度に NPO 法人となりましたが、プロジェクトチームであった時代、2008 年から対象地が印西市と白井市に無償譲渡される前年度まで、千葉県旧企業庁に立ち入り申請を行い、荒廃による環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と環境調査やモニタリングを展開してきました。この保全活動には草刈りなどにとどまらず、百トン単位のごみの撤去なども含まれています。</p> <p>武西の里山の一部が印西市の所有地となった今、当会が経験によって得た保全の方法と、毎年積み上げてきた調査による具体的な環境の把握の実績は、今後市が当地を管理保全していく上で、参考になるのではないかと考えております。</p> <p>また、北総里山クラブ企画によるごみの撤去作業、2013 年の印西市と当会の企画提案型協働事業での里山の不法投棄ごみの撤去事業、2016 年の印西市・企業庁主催の里山の大掃除事業により、湿地に長年放置されたごみの、掘りあげ撤去がようやく終了し、湿地のごみの後には水辺が生まれました。今、葦原の変わりゆく景観は、また新たに生きものたちの息吹を感じさせてくれています。</p> <p>2017 年度は環境保全課に毎月立ち入り願いを提出し、相談、協力しながら活動を続けておりますが、市との協働とすることによって、より緻密な里山の保全活動を展開することができるように期待しております。</p>

<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>①環境の劣化を防ぎ、保護すべき対象を守ることができる ②環境の荒廃を防ぎ、里山の景観を良好に保つことができる ③環境の調査により、実態を把握しより良い保全方法の構築に向かうことができる</p> <p>今後の展望</p> <p>①無理なく継続するような保全の方法・仕組みをつくる ②人と生きものが共生できるようなグリーンインフラを構築する ③行政と市民による自然環境の維持と再生のモデルケースとなる</p>
---	---